

乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチンの 副反応疑い報告状況について

○乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン

商 品 名 : エイムゲン
 製 造 販 売 業 者 : 一般財団法人 化学及血清療法研究所
 販 売 開 始 : 平成7年6月
 効 能 ・ 効 果 : A型肝炎の予防

副反応疑い報告数

(平成28年5月1日から平成28年8月31日報告分まで：報告日での集計)

平成28年5月1日から平成28年8月31日までの医療機関への納入数量を接種可能なべ人数とし、副反応疑い報告頻度を計算したものは以下のとおり。

※報告日での集計のため、以下の件数には接種日や発生日が対象期間以前の症例も含まれている。

(単位:例(人))

	接種可能なべ人数 (回数)	製造販売業者からの報告		医療機関からの報告	
		報告数 () : 接種日が左記期間内の症例		報告数 () : 接種日が左記間内の症例	
		報告頻度	報告頻度	うち 重篤	
平成28年5月1日 ～平成28年8月31日	47,284	0	1 (1)	0.002% (0.002%)	0
(参考) 平成25年4月1日～平成 28年8月31日までの累 計	495,905	5	5	0.001%	1 0.0002%

※1人あたり0.5mL接種されたと仮定した。

平成28年5月1日から平成28年8月31日報告分の重篤例の転帰

(単位:例(人))

	製造販売業者からの報告						医療機関からの報告					
	回復/ 軽快	未回復	後遺症	死亡	不明	計	回復/ 軽快	未回復	後遺症	死亡	不明	計
重篤例数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注意点)

※ 副反応疑い報告については、医薬品との因果関係が不明なものを含め、製造販売業者又は医療機関から報告されたものであり、個別に医薬品との関連性を評価したものではない。

※ 「重篤」とは、死亡、障害、それらに繋がるおそれのあるもの、入院相当以上のものが報告対象とされているが、必ずしも重篤でないものも「重篤」として報告されるケースがある。

※ 非重篤症例には、重篤度が不明の症例も含まれている。

※ 製造販売業者からの報告は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第68条の10に基づき「重篤」と判断された症例について報告されたものである。なお、製造販売業者からの報告には、医療機関から報告された症例と重複している症例が含まれている可能性があり、重複症例は、医療機関報告として計上している。また、その後の調査等によって、報告対象でないことが確認され、報告が取り下げられた症例が含まれる可能性がある。

※ 製造販売業者からの報告には、複数の製造販売業者から重複して報告されている症例が含まれている可能性がある。

乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチンの副反応疑い報告状況

平成25年4月1日から平成28年8月31日までの報告数及び症状種類別報告件数は以下のとおり。医療機関からの報告については、報告医が「重篤」としたものを集計した。

	医療機関からの報告	製造販売業者からの報告	平成25年4月～平成28年4月までの企業報告と医療機関重篤症例の総計数	医療機関からの報告	製造販売業者からの報告	平成28年5月～平成28年8月までの企業報告と医療機関重篤症例の総計数
報告数	1	5	6			
症状別総件数	2	9	11			
症状名の種類	副反応の種類別件数					
肝胆道系障害						
* 肝炎		1	1			
* 肝障害		1	1			
神経系障害						
* 四肢麻痺		1	1			
* 自己免疫性脳炎	1		1			
* 失神		1	1			
* 頭痛		1	1			
* 痙攣発作	1	1	2			
腎および尿路障害						
* 尿失禁		1	1			
皮膚および皮下組織障害						
* 冷汗		1	1			
良性、悪性および詳細不明の新生物(嚢胞およびポリープを含む)						
* 結腸癌		1	1			

*未知の事象

乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 非重篤症例一覧
 (平成28年5月1日から平成28年8月31日までの報告分)

医療機関からの報告

No	年齢	性別	接種日	ワクチン名	ロット番号	製造販売業者名	同時接種	同時接種ワクチン	基礎疾患等	症状名	発生日	接種から症状発生までの日数	因果関係 (報告医評価)	重篤度	転帰日	転帰内容
1	19歳	女	平成28年8月10日	ジェービック V	JR276	阪大微研	あり	エイムゲン(化血研、HA34) ヘプタボックス(MSD、 9KS01R)	なし	意識消失、けいれん	平成28年8月10日	0	評価不能	重くない	平成28年8月10日	回復

乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン接種後のアナフィラキシー※が疑われる症例まとめ(重篤症例)

※【選択基準】

症状名が、「アナフィラキシー」、「アナフィラキシー反応」、「アナフィラキシーショック」、「アナフィラキシー様反応」、「アナフィラキシー様ショック」として報告された症例。

報告期間	症例数	専門家の評価によりアナフィラキシーのブライトン分類評価が3以上とされた症例	推定接種人数
平成25年4月～平成25年6月	0	0	3万人
平成25年7月～平成25年12月	0	0	7万人
平成26年1月～平成26年7月	0	0	9万人
平成26年8月～平成26年10月	0	0	4万人
平成26年11月～平成27年6月	0	0	10万人
平成27年7月～平成27年12月	0	0	7万人
平成28年1月～平成28年4月	0	0	5万人
平成28年5月～平成28年8月	0	0	5万人